

授業科目名 <英訳>	相関教育システム論基礎演習II A Undergraduate Seminar: Interdisciplinary Studies of Educational System IIA				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 准教授 渡邊 洋子					
配当 学年	2-4回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2016・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	課題演習	使用 言語	日本語

共用科目

[授業の概要・目的]

本授業は、生涯教育学の基礎演習であると同時に、全学COC科目に位置づけられる「京都の地域リソース実践学」として開講するものである。

本授業は、京都の一地域を足場に、学生たちが自らの足や五感を用いて地域の現状に触れ、自然・歴史・産業・社会・文化など多岐にわたる地域リソース（モノ・人・情報など）を掘り起こし、その活用・共有・継承・発展などの可能性について共同で考え、実践方策をとりまとめ、具体的提言を行うことを目的とする。

具体的には、京都府の生涯学習拠点施設として今後の活用が期待される京都府立ゼミナールハウス「あうる京北」を足場に、同施設の周辺地域（京北地域）を足場に、自然環境や伝統文化、地場産業等に関わって、フィールドワークや実地訪問、地元住民の方々へのインタビュー調査、関連文献や各種データなどをもとに、地域の理解を深め、地域リソースの掘り起こしとその活用・共有・継承などの可能性を共同で検討し、自分たちなりの取り組みを目指す。

本年度は3年目であり、従来の蓄積を踏まえた内実ある活動として、府立北桑田高校の「地域に学ぶ」総合学習の授業との連携、および府立生涯学習施設「あうる京北」との協働が期待されている。1～2年目の成果を共有・検討した上で、受講者の希望とニーズを考慮しつつ、取り組みの可能性を提案し、具体的方針を決定する。

[到達目標]

・京北という地域を事例に、現代社会における地域課題とそこでの人々の学習課題について、文献だけでなく、実地のフィールドワークや聞き取りを通して、体験的に理解できるようになる。

・地域づくりの活動や課題について、地域住民と地域外の人々の人間形成や関係性の観点から考えることができるようになる。

・地域リソース（考え方・その掘りおこしや活用方法）について、生涯学習的観点から理解を深め、地域リソースと学びを関連づける具体的な活動を、共同で企画・運営できるようになる。

・以上を通して、地域に根ざした人々の生活と学びという観点から、現代生涯学習の実践的理解を深め、理論的課題の橋渡しとなる認識が得られる。

[授業計画と内容]

授業は次の5本の柱で構成される。受講者の必要・要望に応じて回数を振り分けるが、基本的には、以下の予定である。

1 授業ガイダンスと京北オリエンテーション

相関教育システム論基礎演習II A(2)へ続く

相関教育システム論基礎演習II A (2)

-
- 昨年度の授業における到達点と課題に関するプレゼンテーション・情報共有
- 2 今年度の授業の方針とスケジュールに関する打ち合わせ
授業の方針に関する意見交換
- 3 ~ 4 今年度の取り組みの可能性についての提案と全体討論
- ・北桑田高校との連携による「総合」授業への参加・ワークショップ実施
 - ・あうる京北との連携によるプログラムや地域イベントへの参加など
 - ・その他
- 5 ~ 6 京北での宿泊研修 日程は5月中旬を予定
フィールドワーク / 地元の方へのインタビュー / ワorkshop実施など
- 7 ~ 11 グループワーク
(話し合い・協同作業・調査・交渉など)
(北桑田高校、あうる京北関係者の方々との協議・すり合わせ等)
- 12 ~ 13 京北での日帰り研修 2回程度 7月~8月
プログラム実施・成果発表・地元住民との意見交換などの会
- 14 大学での活動の振り返り (到達点と個人・グループの今後の課題確認)
- 15 フィードバック
- * 諸条件や話し合いの展開により、宿泊研修・日帰り研修の時期に変更が生じる可能性もある。

【履修要件】

全日程への能動的な参加が望まれる。

特に、自らの問題関心との関わりを意識した参加姿勢、グループでのパートを担う自覚などが期待される。

前期の実践的経験を後期の研究的・理論的な問題関心につなげていく上で、後期の相関教育システム論基礎演習 Aと合わせて受講されたい。

大学入学時に案内のあった学生保険への未加入者は必ず入ること。

相関教育システム論基礎演習II A (3)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

出席、グループワークへの参加・貢献度、発表などに、最終レポートを加えた総合評価とする。
出席等：最終レポートは、およそ8：2。評価基準は、到達目標について、教育学部の評価基準に従って評価する。

[教科書]

授業中に指示する
適宜、複写資料などの補助教材を使用する。

[参考書等]

(参考書)
前平泰志監修・渡邊洋子編著 『生涯学習概論―地域基盤社会で学ぶこと・学びを支えること』(ミネルヴァ書房)
渡邊洋子 『生涯学習時代の成人教育学―学習者支援へのアドヴォカシー』(明石書店)
相庭和彦 『現代生涯学習と社会教育史』(明石書店)
ピーター・ジャーヴィス編 『生涯学習支援の理論と実践―「教えること」の現在』(明石書店)
マルカム・ノールズ 『学習者と教育者のための自己主導型学習ガイド―ともに創る学習のすすめ』(明石書店)

その他の文献は、授業中に適宜、紹介する。

(関連URL)

<https://www.coc.kyoto-u.ac.jp/report/category/community-design/course18>(COC授業のページです)

[授業外学習(予習・復習)等]

授業の開始時や授業期間中に、生涯学習、地域教育関係などの参考文献を紹介するので、授業の進行と並行して読み進め、議論や作業に反映させて欲しい。

グループワークなどを含め、自らの学習の記録を取り、それをもとに、学習ポートフォリオを作成して、自らの学びのマネジメントを行うものとする(このためのガイダンスも、授業に含まれる)。

(その他(オフィスアワー等))

履修希望者は、必ず初回授業の授業ガイダンスに出席すること。万が一、同日のみ出席できない場合には、必ず、授業担当者(渡邊)に事前連絡のこと。

宿泊研修等は、できる限り、学生に負担がかからないように配慮する予定であるが、予算の関係で多少の負担をお願いする可能性もあるので、了承されたい。
詳細は、授業ガイダンスで説明するので、必ず出席されたい。

宿泊研修時に他授業の欠席を余儀なくされる場合には、欠席許可願を発行する。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。